



「第15回うるま市総合文化祭 展示の部」が11月15日から17日までの3日間、生涯学習文化振興センターゆらてくで開催されました。市文化協会の作品が並び同文化祭は、書道や盆栽、絵画などが展示され訪れた人々の目を惹きつけていました。また、茶道や押し花などの体験コーナーも、多くの来場者で賑わっていました。

11/15~17  
うるま市総合文化祭  
展示の部

- 瑞宝単光章 池原 満(氏71) 【与那城饒辺警察功勞 元 沖縄県警視】
- 瑞宝双光章 照屋 賢正(氏64) 【石川白浜消防功勞 元 うるま市消防監】
- 叙勲受章 おめでとうございませす
- 瑞宝功勞 元 沖縄県警視
- 警察功勞 元 沖縄県警部

それぞれの道で永年にわたり尽力され、多大な功績を残された方々が、各叙勲を受章し表彰を受けました。(順不同)

うるま市で盛んに行われている闘牛は、古くから市民に親しまれ、学びの場の題材にもされるなど、地域に根付いた本市の代表的な文化として広く市民に親しまれていることなどから、市の無形民俗文化財に指定されています。

本市では、このような「うるま市の闘牛」から感じられる、たくましくも心優しい精神に習い、うるまらしい住みよいまちづくりを目指すことを目的とし、うるま祭り闘牛大会において、「闘牛のまち」宣言を行いました。



【セレモニーには、新旧ワイドも参加。会場を盛り上げました】

10/19  
うるまのいきまきひくりを目指して  
「闘牛のまち」宣言



「食を通じてうるま市を元気にする」を基本理念に、2018年11月にオープンしたうるまマルシェが、オープン1周年を迎え、様々なイベントが開催されました。

1周年を記念した式典では、うるまマルシェに出品している生産者の方々へ表彰が行われ、島袋市長は「生産者の皆様の支援のおかげ。今後もうるまマルシェが成長していくことを期待しています」と挨拶しました。

イベントは11月1日〜4日まで行われ、多くの来場者で賑わいました。



10/13  
獅子の勇壮な舞  
第34回全島獅子舞フェスティバル



県内各地で受け継がれる獅子舞が一堂に会する「第34回全島獅子舞フェスティバル」が安慶名闘牛場で開催されました。

本市からは天願獅子舞保存会と田場区伝統芸能ティンペー獅子舞保存会が出演。それぞれ特色のある獅子の舞を披露し、集まった観客を魅了しました。

11/1  
皆様を支えられて  
うるまマルシェ1周年

10/25  
地域資源をどう活用するか  
勝連城跡をテーマに  
シンポジウム

「勝連城跡を歴史・文化、観光振興の新たな拠点として創出するため、市芸術劇場ホールにてシンポジウムが開催されました。

シンポジウムでは、肝高の阿麻利の初代演出家・平田大氏や専門家による基調講演のほか、「魅力的かつ持続可能な観光拠点エリアを目指して」をテーマに、市内各団体代表者などによるパネルディスカッションが行われました。訪れた市民らは、真摯に耳を傾けていました。



11/15  
楽しく学んで、火の用心！  
ふれあい消防フェスタ

市内の保育園児たちに楽しみながら防火の心を育み、命の大切さを身につけてもらうため、具志川ドームにおいて「ふれあい消防フェスタ」が開催されました。

園児らは、放水体験やミニ救急車の乗車体験、火災を想定した煙体験ハウスでの訓練など、防火意識を高めるアクションを通して、火遊びや火災の恐ろしさについて楽しみながら学んでいました。

同フェスタには、市内47箇所の幼稚園と保育園、約千数百人の園児らが参加。園児らは「絶対に火遊びはしません」と防火の誓いを宣言しました。

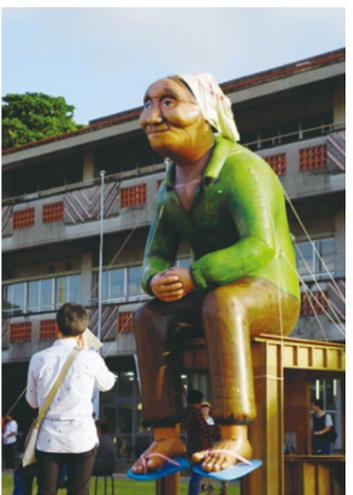


10/28  
留学で学んだこと・感じたこと  
海外短期留学派遣事業帰国報告会

市の海外短期留学派遣事業において、市立中学に在学する生徒10人が7月24日〜8月17日の日程で、アメリカのワシントン州シアトルへ短期留学を行い、その帰国報告会が市役所で行われました。

「日本とアメリカの違いを学ぶことができた」、「この体験をみんなに伝え、海外に興味を持ってもらいたい」、「将来はうるま市の魅力を伝えたい」など、生徒たちは、留学を通じて学んだことや感じたこと、これからの目標について日本語と英語で発表を行いました。

同事業は、ホームステイを通して語学や生活・文化などを学ぶと同時に、国際性豊かな人材育成を目的として実施しています。



11/1~10  
うるまシマダカラ芸術祭  
島の記憶と、未来が対話する場所へ。

「うるまシマダカラ芸術祭」が11月1日〜10日まで間、浜比嘉島、宮城島、伊計島を舞台に開催されました。

2012年から行われてきた『イチハナリアートプロジェクト』の後継イベントとなる同芸術祭は、うるま市の5つの島々を舞台に、現代アート、デザイン、食、工芸などの約30組の作家たちと、島の人々がともに作り上げるアートフェスティバルです。

芸術祭の開催期間中に、市内外から約6千人の方々を訪れ、島をゆったり散策しながら、点在するアート作品の鑑賞を楽しみました。

